



ZENFUREN

2014年10月3・4日

号外

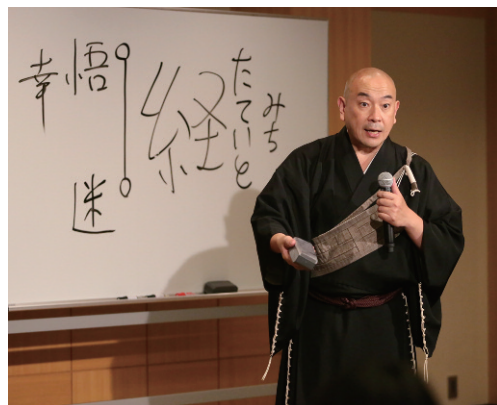
全国国立大学附属学校連盟
全国国立大学附属学校 PTA 連合会
〒105-0001 港区虎ノ門 1-2-29
虎ノ門産業ビル 8F
TEL : 03-3591-2091
FAX : 03-3591-2092

全附P連PTA研修会 第5回全国大会

テーマ別分科会

人生は、『幸福しあわせ』という名の宝探し 葉師寺・執事 大谷徹英氏

お互い、真正面に向き合い、相手の目を見つめて、微笑んで、大きな声で「よっぽどの縁ですね！」
～日本の伝統文化としての仏教を通して『こころ』を考える。



お墓を持たず、僧侶は一切葬儀に触れない奈良葉師寺。その心を訓練する学校の^{大谷徹英}和尚は、「経」は「たていと」「みち」とも読み、人生のガイドブックであると語ります。

仏教でしあわせの概念を表す4文字、^{しんじんあんらく}身心安楽、身は目に見えるもの、心は目に見えないものを指しています。身体が楽なときを^{らくしん}楽身といいます。ラクチンという言葉は楽身に由来するそうです。心が楽なときは^{あんしん}安心といいます。それを阻害する不安の種は人間関係。人間関係の難しさは人の価値観、それぞれの持つ「物差し」の違いに起因します。

人と人との出会いは「縁」であり、縁に良悪はありません。価値観は傍らに置き世の中すべてを「よっぽどの縁」と思い接することで関係を深めていきましょう。

私たちは迷ってばかりです。悟りは難しい修行をした人だけが得

る境地ではありません。^{じかくこ}自覚悟という言葉があります。自覚も覚悟もこれです。人にはそれぞれ与えられた役目があります。自分で自分の心がわかる。やらされているのではダメです。大谷和尚は復唱されるそうです。「自分が大切だと信じるものを、自分が大切に大切に育て続ける。それがすべてだと私は思う。」

最後に静観自得という言葉いただきました。人の評論だけで生きてはいけません。静かに自分を見つめて自分で納得することが大切なのです。

会場で目の前に差し出した掌、結んで開くことができるのは自分だけ、人生は人にやらされているのではない、自分で詰めていくものだと思えました。

ありがたいお話をありがとうございました。(合掌)



愛媛大学附属高等学校
教育後援会会長 熊本 順 取材